

故障？ ちょっと調べてください

意外な操作ミスが故障とされています。アフターサービスを依頼する前に次のチェックを行ってください。それでも直らない場合は、お近くのパイオニアサービスセンター、サービスステーションへご連絡ください。

- ターンテーブルが回らない
 - ドライブベルトがはずれている → ベルトを正しい位置に取りつける(5頁参照)
 - ACコードが抜けている → 電源コンセントにしっかり差し込む
(ACコードをステレオアンプのACアウトレット(SWITCHED)に接続した場合は、ステレオアンプの電源スイッチをONにする)

- 音がでない
 - PUコードがはずれていたり、接続不良 → 正しい位置にしっかりと接続する(7頁参照)
 - ヘッドシェルの取付不良 → ロックネジをしっかりとしめなおす
 - カートリッジのリード線がはずれている → ピンをしっかりと差し込む(11頁参照)
(ステレオアンプの操作が正しく行われているか — FUNCTIONスイッチを“PHONO”、TAPE) MONITORスイッチを“OFF”、VOLUMEコントロールを“適正な位置”… etc.)

- 音のテンポがおかしい
 - レコード盤の回転数と速度切り換えボタンがあてない → レコード盤にあった回転数スイッチ(33, 45)を押す
 - ドライブベルトが正しくかかっていない → 正しい位置にとりつける(5頁参照)
 - ドライブベルトやモータープリーが汚れている → 無水アルコールを用い柔い布で清掃する
 - 電源周波数とモータープリーが合っていない(お買いあげ後の移転などで) → サービスにご連絡ください

- 雑音が多い
 - アース線がはずれている → しっかりと接続する(7頁参照)
 - レコード盤上にゴミ、ホコリが多い → 良質のクリーナーでレコード盤面を清掃する
 - カートリッジの針先にホコリが付着している → 清掃する
 - 針圧が軽すぎる → 適正針圧に調整する(6頁参照)
 - クランプネジがはずれていない → 取りはずす(5頁参照)
(レコード盤の無音溝でも雑音がでている場合、ステレオアンプや他の電気機器からの影響が考えられます。プレーヤーの位置や他のコンポーネントをご検討ください)

- 音が歪んでいる
 - 針先が磨耗している → 新しい針先と交換する
 - カートリッジの針先にホコリが付着している → 清掃する
 - 針圧が軽すぎる → 適正針圧に調整する(6頁参照)

- オートプレイ時にSTARTボタンを押してもトーンアームが動かない
 - アームクランプがはずれていない → アームクランプをはずす

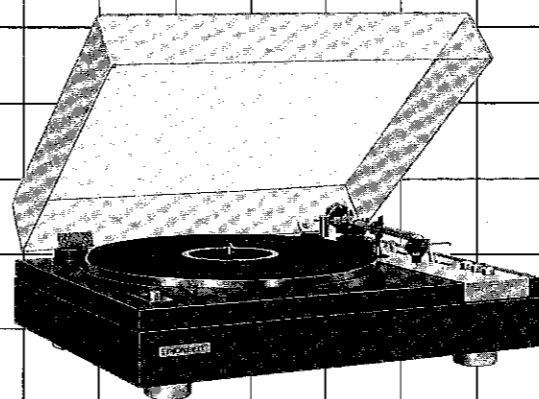
- オートプレイ時に針先が下降しない
 - アームエレベーションがUPになっている → DOWNの位置にする

- オートプレイ時に針先が正しい位置に下降しない
 - 12頁針先下降位置の調整を参照して調整ネジで調整する

ハウリングとは—レコード演奏中にスピーカーからの振動が空気や床などを経てカートリッジに伝わって起こるもので、部屋全体が“ワーン”とうなるような現象をいいます。このような現象が起きたときは、プレーヤーを振動の伝わらない場所に移すか、しっかりした台の上に乗せるようにしてください。

PL-A300 PL-A300S

使用説明書



パイオニアフルオートステレオレコードプレーヤー PL-A300Sをお買い求めいただきまことにありがとうございます。

本機には、マホガニー仕上げのPL-A300と、パールのPL-A300Sがあります。キャビネットの仕上げが異なるだけで操作方法、内容は全て同じです。この使用説明書では、PL-A300Sを基にして説明されています。

使用説明書を最後までお読みいただき、理解された上で正しくお使いいただくようお願いいたします。

特長

優れた操作性のフルオートメカニズム

レコード演奏は、お好みのレコード盤をターンテーブル上に乗せて、レコードサイズセクターをセットするだけ、後はSTARTボタンを押せば、トーンアームが正確にスタートポイントまで運ばれます。そして、アームエレベーション機構の働きにより針先はゆっくりレコード盤上へ下降し、演奏が始まります。演奏が終了すると、トーンアームは自動的にアームレストへ戻り、レコードプレーヤーの電源も切れます。

またフルオートメカニズムより独立したアームエレベーションレバーを採用していますので、演奏中の一時中断も容易に行えます。

STOPボタン、REPEATボタンも備え、一段と使い易さの向上したフルオートレコードプレーヤーです。

高回転性能を誇るベルトドライブ方式

電源電圧および負荷の変動による回転数の変化が少ない精密4極シンクロナスマーターを採用、わずかな振動もポリウレタン製ドライブベルトにより吸収します。慣性性能の良いターンテーブルと相まってSN比63dB以上(DIN-B)、ワウ・フラッター0.07%以下(WRMS)と高性能を実現しています。

高感度S字型トーンアーム

搭載しているトーンアームは、水平、垂直回転部に高級アンギュラコンタクトベアリングを採用、ガタツキ、摩擦が少なく、高い感度を得ることができしかも耐久性に富んでいます。アンチスケーティング装置、ラテラルバランス装置も組み込まれており、ハイコンプライアンスカートリッジによる軽針圧演奏にも最適です。

新タイプのカートリッジ PC-110/II

新しく開発されたムービングマグネット型カートリッジPC-110/IIを搭載。周波数特性15~25,000Hz、チャンネルセパレーション25dB以上と諸特性に優れ、スムーズな周波数レスポンスと、優れたトレース能力を得ています。

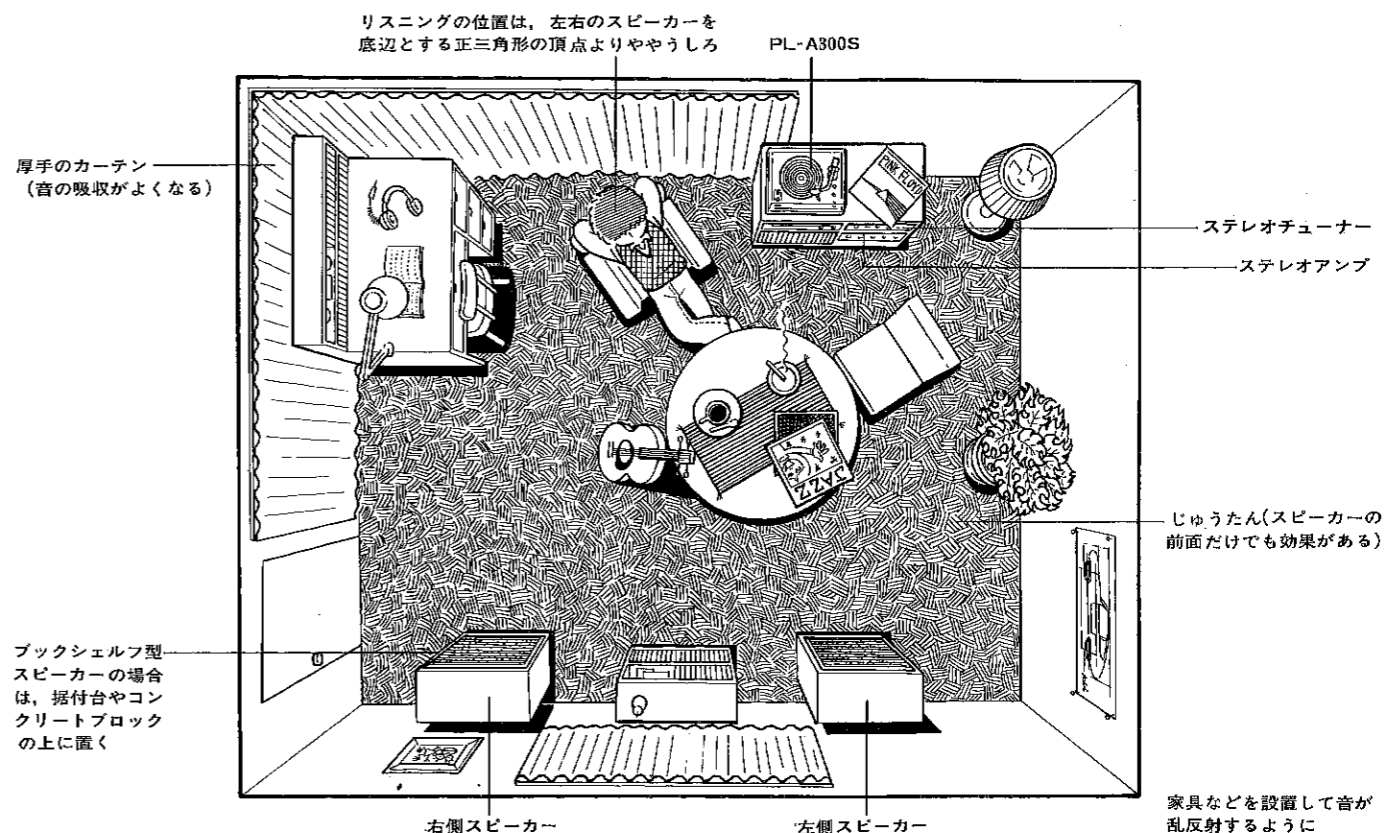
ミネラルソリッドを採用した音質重視のキャビネット

ベースプレートの材質には、ミネラルソリッドを採用。ミネラルソリッドは、適度な内部損失を持ち、高強度、高比重の材質で、レコード再生に有害な共振を起こしにくく、理想的な音響用素材です。また、モーターやトランスなど外部からの電磁誘導によるS/Nの悪化を防ぐため、キャビネットの内面にはアルミニウムシールドがなされています。

豊富な付属装置

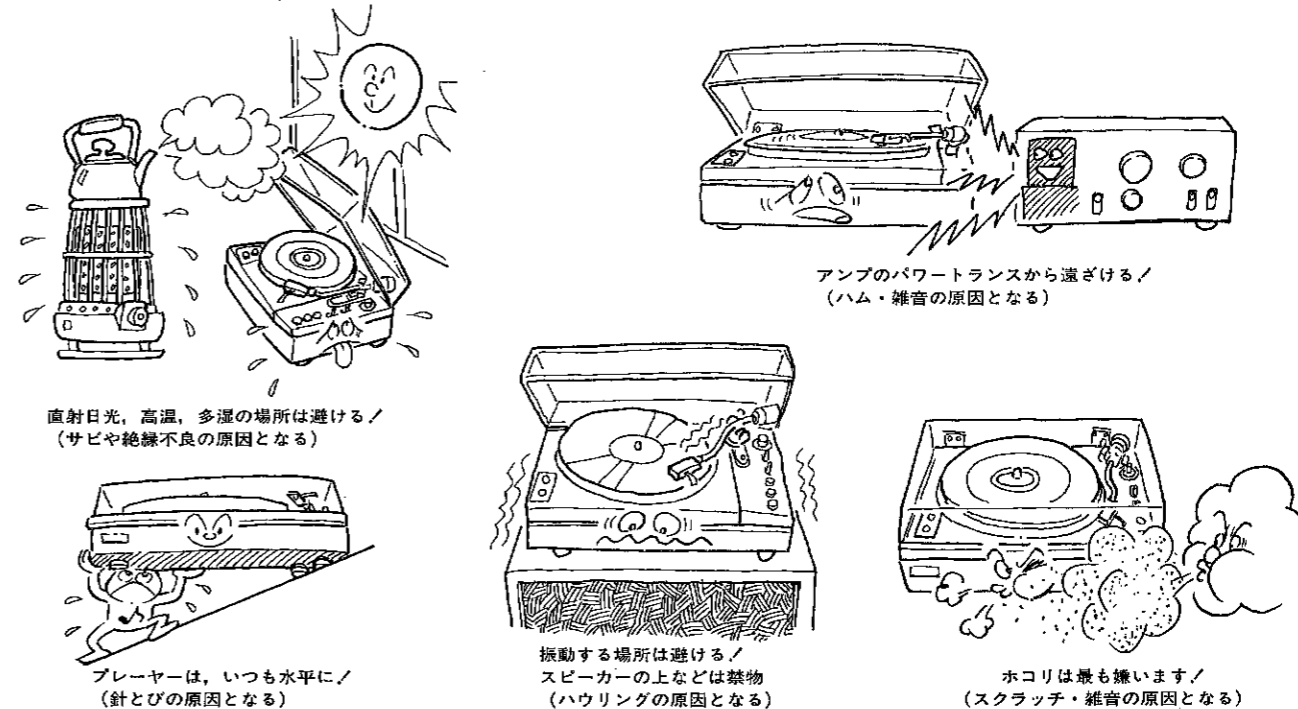
軽量で強い剛性を持ったアルミニウム製ヘッドシェル、低容量出力コード、着脱の容易なフリーストップヒンジ付ダストカバー、スぺア用カートリッジのための便利なヘッドシェルスタンド、大切な針先やレコード盤を守るアームエレベーション機構など、豊富な付属機構が盛り込まれています。

ステレオシステムの構成と設置例



設置にあたって

プレーヤーを設置する時は、次の点に注意して最良の条件でお使いください。



目次

特長	2
ステレオシステムの構成と設置例	3
設置にあたって	3
各部の名称	4
組立手順	5
トーンアームの調整	6
ステレオアンプへの接続	7
ダストカバーの着脱	7
各部の名称と使い方	8
演奏方法	10
針先の交換	11
他のカートリッジを使用する場合	11
レコードプレーヤーの保守	12
仕様	13
故障？ちょっと調べてください	14

各部の名称

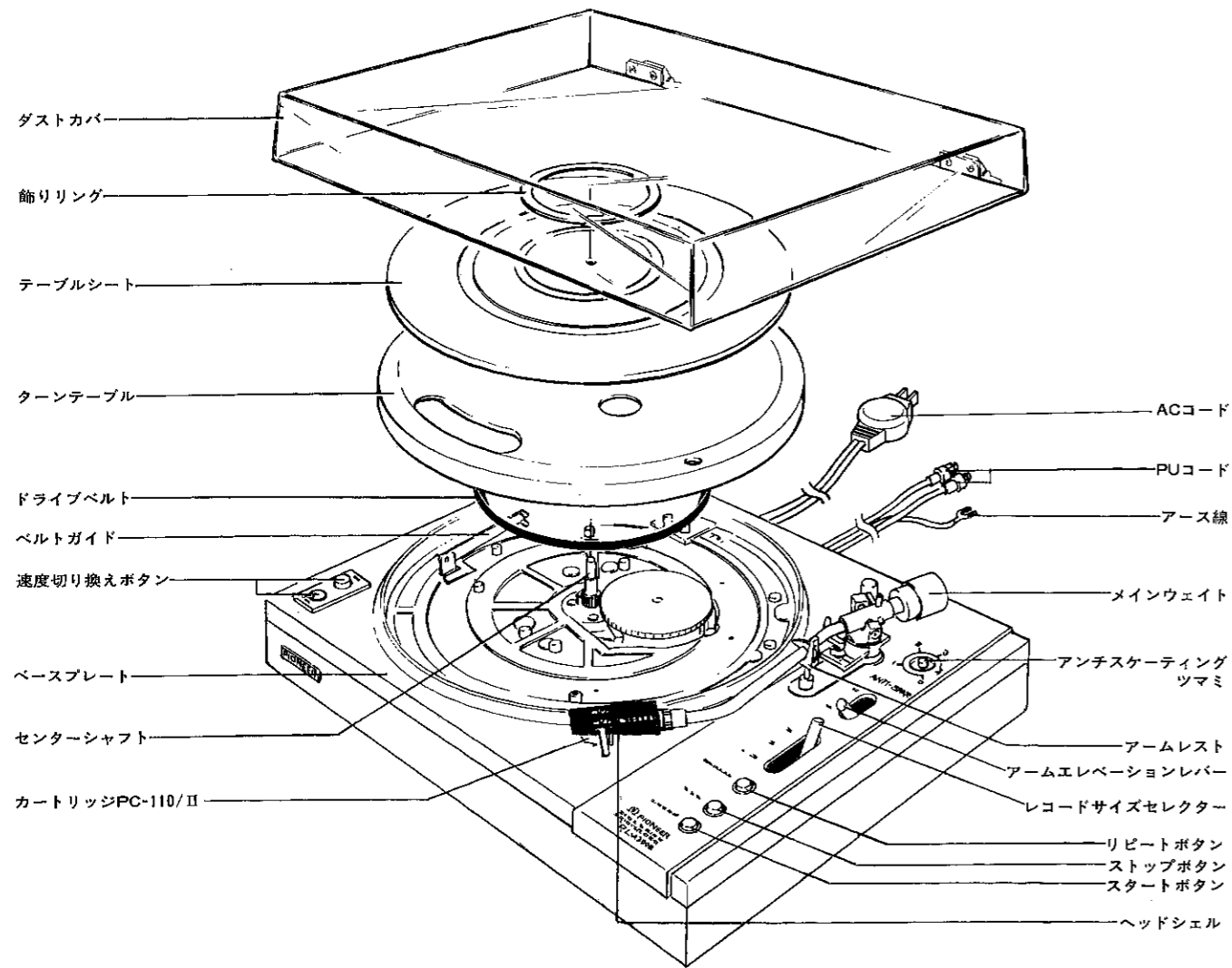


図1

付属品の内容

付属品箱には、次の各パーツが収納されています。

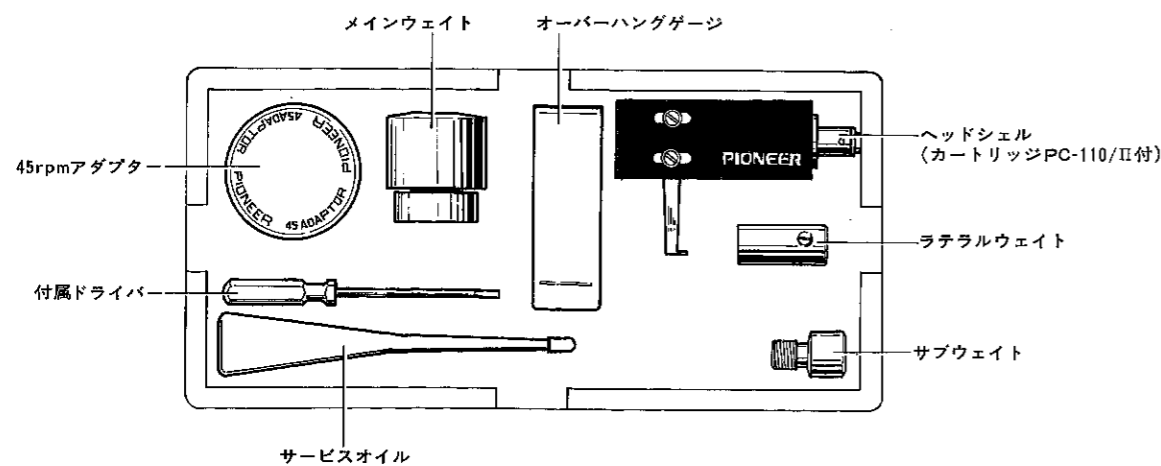


図2

組立手順

1. トーンアームパッキングを取り去る

輸送時、トーンアームを保護しているプロテクターをはずします。テープをはがし、トーンアーム軸に無理な力を加えないように静かに取りはずしてください(図3)。

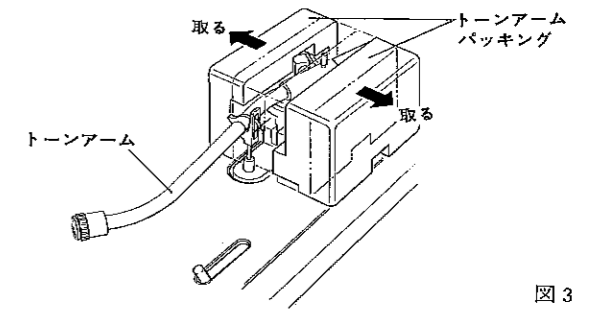


図3

2. クランプネジを取りはずす

ベースプレート上の2本のネジは、輸送時、フォノモーターを固定しているものです。演奏時につけたままですと、モーターの振動がトーンアームに伝わりレコード再生に悪影響を及ぼします。必ず取りはずしてください(図4)。

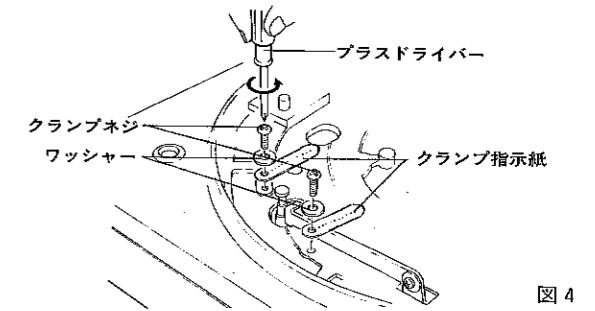


図4

3. ターンテーブル、テーブルシートをのせる

ターンテーブルをセンターシャフトに合わせてはめこみます。その後、テーブルシート、飾りリングをターンテーブルの上にのせます(図1参照)。

4. ベルトをかける

速度切り換えボタンの33を押し、ベルトについているリボンを引っばってベルトをモータープリー上部(直径の小さい方)にかけます。図5のようにベルトガイドを通して、ベルトがねじれないようにかけます。その後、リボンは取り去ります。

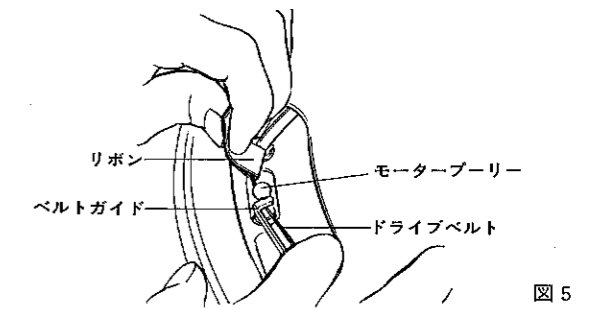


図5

5. ヘッドシェルを取り付ける

付属品箱からヘッドシェル(カートリッジ付き)を取り出し、トーンアーム先端に差し込み、ロックネジをしめつけ固定します(図6)。

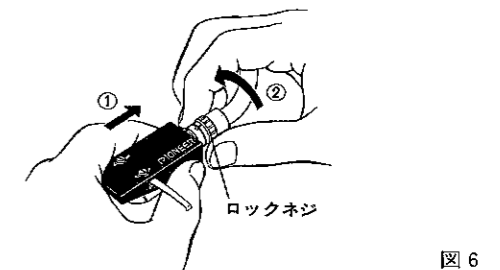


図6

6. ラテラルウェイトを取り付ける

付属のドライバーでラテラルウェイトをラテラルバーに取り付けます。ラテラルウェイトは、トーンアームとの間隔が18~23mmになるように取り付けます(図7)。

なお、カートリッジを交換した場合でも、ラテラルウェイトの位置を再調整する必要はありません。

7. メインウェイトを取り付ける

トーンアーム後端のウェイト軸に、メインウェイトを差し込み矢印の方向に2~3回、回して止めます(図8)。

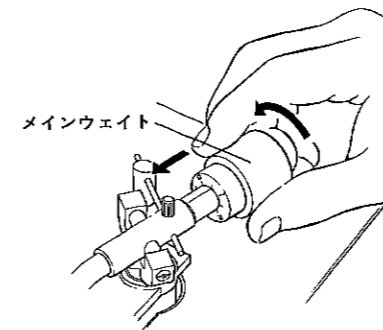


図8

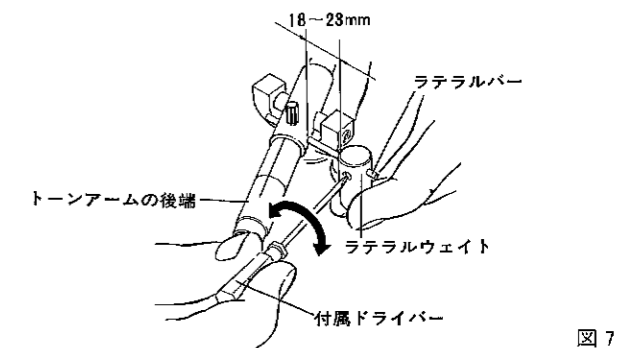


図7

トーンアームの調整

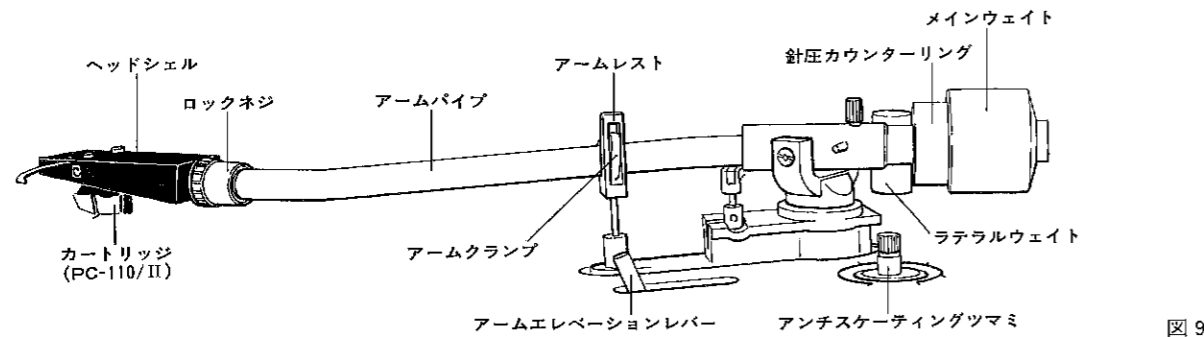


図9

トーンアームが正しく組み上がりましたら、次の手順に従って調整を行います。

なお、調整が完了するまで電源は入れないでください。

水平バランスの調整

- 1 アンチスケーティングツマミを“0”に合わせます(図9,11)。
- 2 カートリッジの針カバーをはずします。
- 3 アームエレベーションレバーを“DOWN”にします。
- 4 アームクランプをはずし、トーンアームをアームレストからはずします。このときトーンアームは自由に動きますから針先を傷めないよう注意してください。
- 5 メインウェイトを回し、トーンアームがヘッドシェル側にもメインウェイト側にも傾かず、ターンテーブルと水平になるように調整します。図10のA、Bの状態では水平バランスはとれていません。
- 6 トーンアームをアームレストに戻し、クランプします。
- 7 水平バランスがとれた状態で針圧は0となっていますのでメインウェイト前部の針圧カウンターリングのみを回し、ウェイト軸の基線に“0”を合わせます(図11)。
- 8 最後に、針先保護のためカートリッジに針カバーを付けます。

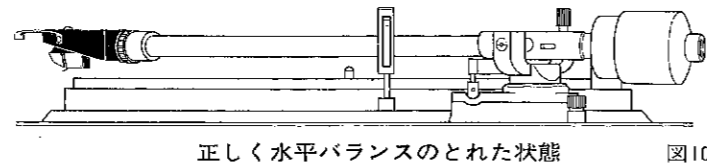


図10

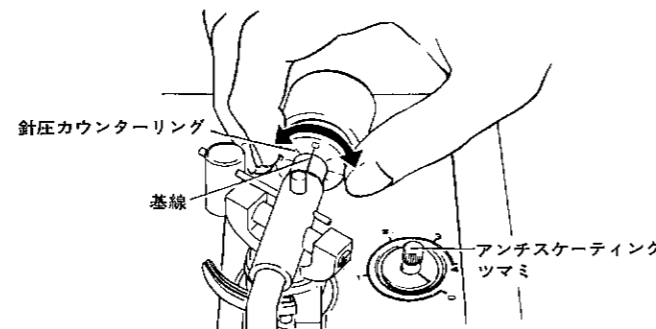
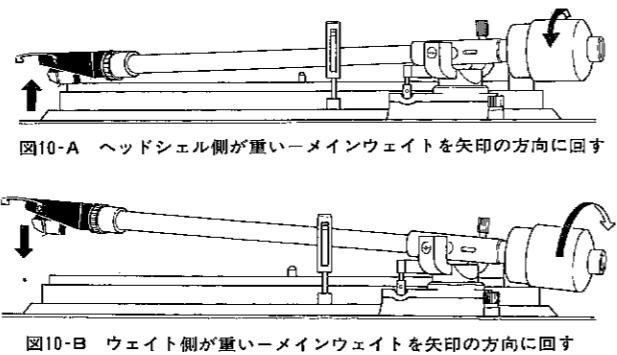


図11

針圧の調整

メインウェイトを回して、ウェイト軸上の基線に加える針圧値を合わせます。付属のカートリッジPC-110/IIの適正針圧は2.2グラムです。基線上に“2.2”を合わせます(図12)。なお針圧カウンターリングの目盛は0.5グラム刻みで1回転すると4グラムの針圧がかかります。

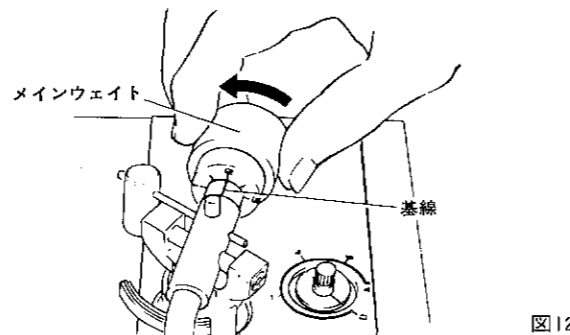


図12

アンチスケーティングの調整

アンチスケーティングの調整は、加えた針圧に等しい数値にツマミの基線を合わせます。

PC-110/IIの針圧を2.2g加えた場合は、ツマミの基線をおよそ2.2に合わせてください(図13)。

アンチスケーティングとは

レコードの回転により、針(トーンアーム全体)は前方に引かれる力を生じます。この力は針先とアーム支点の線上の方向と、レコード内周に向う力とに分解でき、このうち、レコード内周方向に向う力をスケーティングフォースといい(この力はレコード演奏に、悪影響をおよぼします)、この力を逆方向の力で打ち消すように考慮された機構が、アンチスケーティング装置です。特に軽針圧カートリッジによる演奏には重要な因子となります。

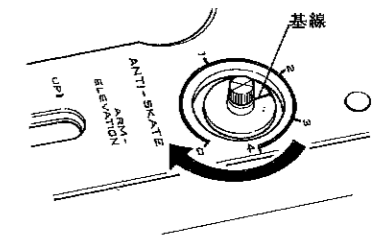


図13

ステレオアンプへの接続

PUコード、アース線およびACコードは、PL-A300Sの背面から出ています。PUコードは白いプラグ(Lの表示)をステレオアンプのPHONO端子のL(左)チャンネルへ、赤いプラグ(Rの表示)をR(右)チャンネルへしっかり差しこみます。先端にY字型の金具のついた細いコードはアース線です。アンプのアース端子にしっかり接続します。

最後にACコードをステレオアンプなどのACアウトレットにつなぎます(図14)。

低出力タイプのムービングコイル(MC)型のカートリッジをご使用になる場合には、専用のMCトランスが必要です。その他特殊なカートリッジをお使いになる場合の接続は、お手持ちのカートリッジ、ステレオアンプの使用説明書をご覧ください。PL-A300Sの付属カートリッジ(PC-110/II)は、ムービングマグネット(MM)型です。必ずステレオアンプのPHONO MAG端子へつないてください。

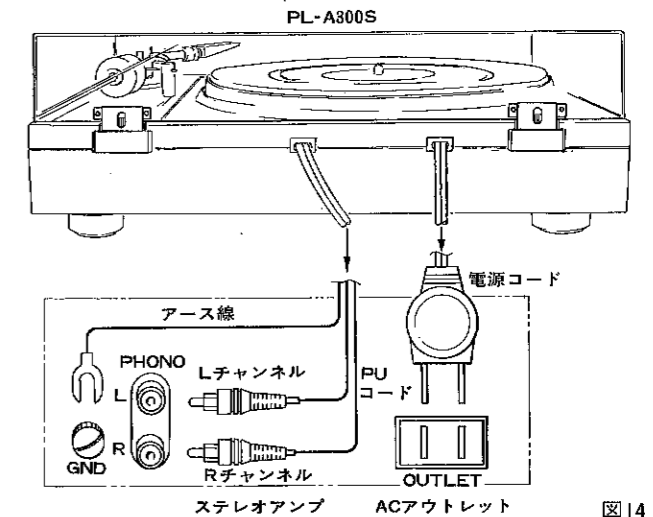


図14

ダストカバーの着脱

ダストカバーは、プレーヤーケース後面の差し込み口にダストカバーの金具を差し込んで取り付けます。取り付け時には、図15のようにダストカバー下部をもち、後から差し込むと、スムーズに取り付けます。取りはずすときは、ダストカバーをいっばいに開き、下部をしっかりと持ち、真上に引き抜きます。

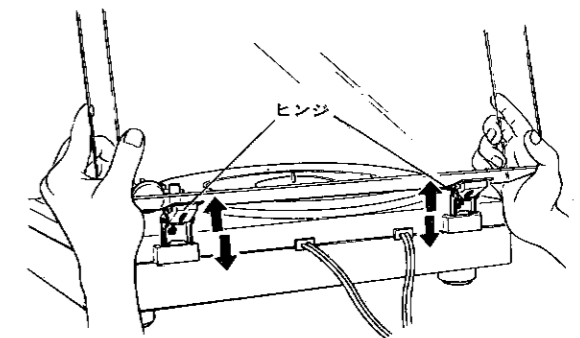
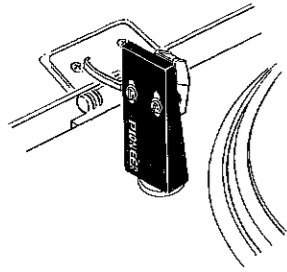


図15

各部の名称と使い方

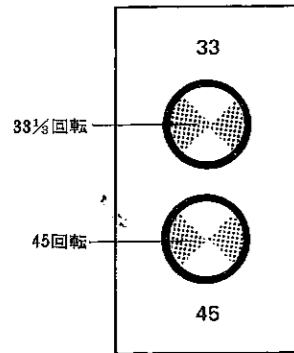
ヘッドシェルスタンド

お手持ちのステアヘッドシェルを差し込みます。ヘッドシェルのピンをスタンドの溝に合わせて差し込みます。なお、ヘッドシェルの長さがダストカバーの高さより長い場合はスタンドには差し込まないでください。ヘッドシェルを差し込まないときは、45rpmアダプターを置くこともできます。



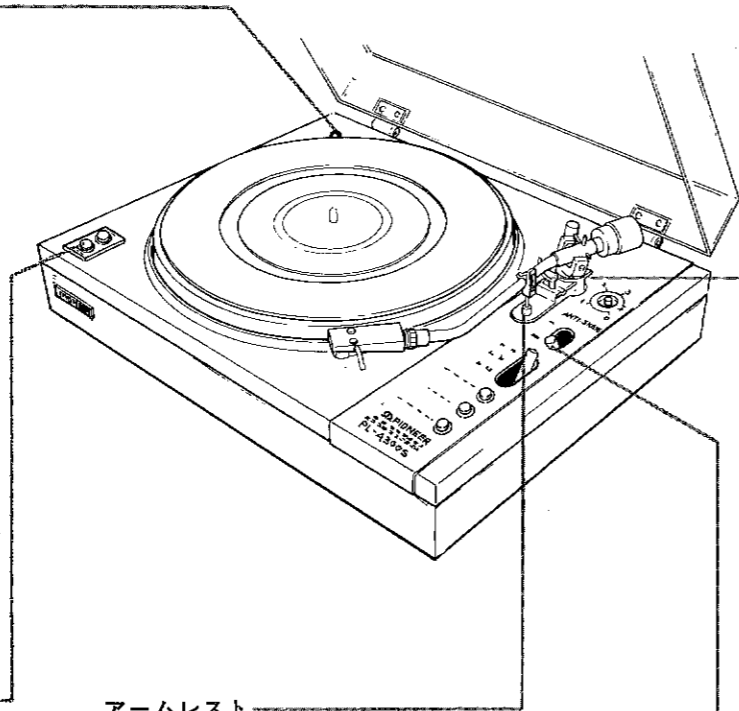
速度切り換えボタン

演奏するレコード盤の回転数に合わせてボタンを押します。なお、回転数を切り換えるときは、必ずターンテーブルが回転している状態で行ってください。



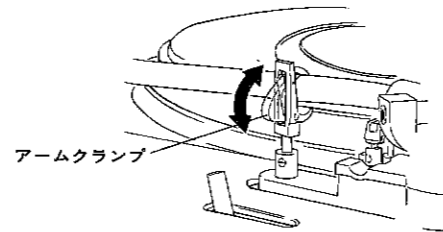
45rpmアダプター

45回転EP盤(ドーナツ盤)を演奏するとき、センターシャフトにはめこみます。



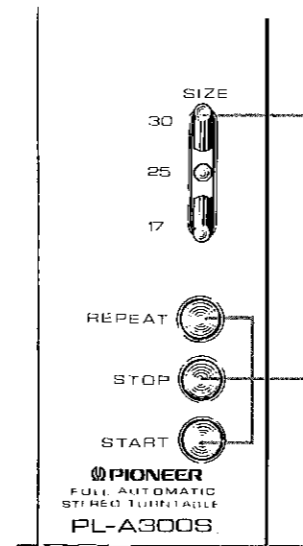
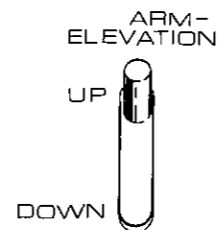
アームレスト

アームレストは、トーンアームを支えるものです。演奏時以外はトーンアームをアームレスト上に置きます。演奏終了後は、図のようにアームクランプをかけておきます。



アームエレベーションレバー

このレバーの操作でトーンアームが上昇、下降します。
UP ……手動でトーンアームを上昇させるとき。
DOWN…手動でトーンアームを下降させるとき。
自動演奏のときは、必ずこの位置にします。



レコードサイズセレクター

自動演奏のとき、演奏するレコード盤のサイズに合わせて、このレバーを合わせます。
30……………30cmLPレコード盤を演奏するとき
25……………25cmLPレコード盤を演奏するとき
17……………17cmLPレコード盤またはEPレコード盤を演奏するとき

レコードサイズセレクターは、STARTボタンを押す前に、セットしてください。トーンアームが移動中にレバーを切り換えると、正しい位置に針先が降りない場合があります。

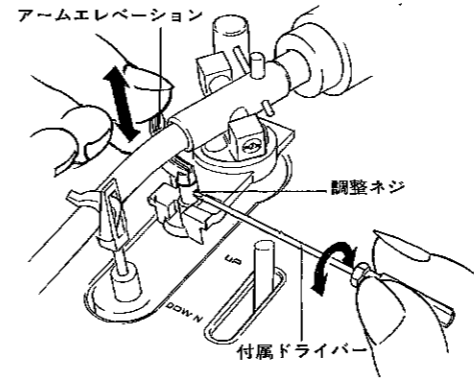
ファンクションセレクターボタン

REPEAT ……同じレコード盤を何度も繰り返して演奏するとき
このボタンを押し込みます。REPEAT動作を解除するときは、STOPボタンを押します。
STOP…………レコード演奏中にこのボタンを押すと、トーンアームがアームレストに戻ります。その後ターンテーブルの回転が止まり、電源も切れます。
START ……このボタンを押すと、ターンテーブルが回ります。その後、トーンアームが指定の位置まで移動し、演奏が始まります。
なお、STARTボタンは内部で機械的にロックされますので押し込んでいる必要はありません。

自動演奏のときは、必ずアームエレベーションレバーを“DOWN”の位置にしてください。“UP”の位置にアームエレベーションレバーがあると、STARTボタンを押しても自動演奏は行われません。

アームエレベーション

付属のカートリッジの場合は、必要ありませんが、使用するカートリッジに応じて高さが調整できます。調整は図のように付属のドライバーで調整ネジをゆるめて調整後、固定します。



操作上の注意

- 演奏前後は必ず、針先を柔らかいハケやブラシで、レコード盤面を良質のクリーナーなどで清掃するようご注意ください。
- ヘッドシェルを差し換えるときは、トーンアーム軸に無理な力が加わらないよう、トーンアームをアームレストにクランプしてください。
- レコード演奏中は、プレーヤーに振動を与えないように注意してください。カートリッジの針先を傷めたり、レコード盤を傷つける原因となります。
- トーンアームをセンターシャフトから30mm以内に、無理にもって行かないでください。内部機構を損傷してフルオート動作が不能になることがあります。
- ターンテーブルには、演奏するレコード盤を1枚だけのせてください。2枚以上のせると、レコード音溝にカートリッジの針先が正しく接しないため正常な演奏ができなくなります。

レコードプレーヤーの保守

キャビネットのお手入れ

キャビネット、ダストカバーにホコリやヨゴレが付いた時は、ポリッシングクロス、または乾いた布で拭き取ってください。家具用ワックス、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付きますと表面が侵されますから、ご使用を避けてください。

注油について

レコードプレーヤーを長く安定した状態でご使用いただくため、一定期間内に注油を行ってください。本機は2,000~2,500時間に1度の注油で安定した動作を保つことができます。通常ご使用の場合、1日平均3~4時間レコード演奏をお楽しみになる場合ですと、1年半~2年に1度の割合で指定の場所へ注油すれば十分です。注油方法は下記の手順で行ってください。

- 1 ダストカバーをはずす(7頁ダストカバーの着脱の項参照)。
- 2 トーンアームをアームレストにクランプし、針先保護のため針カバーを付けておきます。
- 3 テーブルシートをはずし、モータープリーからベルトをはずします(5頁、項目4を参照)。
- 4 ターンテーブルを取りはずします。ターンテーブルを取りはずすときは、ターンテーブルの2つの穴に指を入れ、強く真上に引っぱり上げるとはずれます(図21参照)。
- 5 付属品箱からサービスオイルを取り出し、図22のモーター注油孔へ1~2滴注油します。その時、誤まってドライブベルトやモータープリーにオイルを付けないように注意してください。

オイルをドライブベルトやモータープリーなどに付着させると回転ムラの原因となります。もし付着させてしまったときは、無水アルコールで丁寧に拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの使用はドライブベルトを傷めますので避けてください。

- 6 注油が完了しましたら、逆の手順で組み立てます。

針先下降位置の調整

針先下降位置は、あらかじめ工場出荷時に調整されていますので再調整の必要はありませんが、万一自動演奏中に針先の下降位置がズレるような場合は、次の手順で調整をしてください。針先下降位置調整ネジは、トーンアーム軸右側のベースプレート上にあります(図23)。下降位置が外側すぎる場合は、付属のドライバーで調整ネジを反時計方向へ回します。内側すぎる場合は、時計方向へ回して下降位置を調整します(図24)。なお、下降位置は、ネジを1回転回すと、約3mmスライドします。

針先下降位置の調整は、針先とレコード盤を傷つけないよう、十分注意してください。

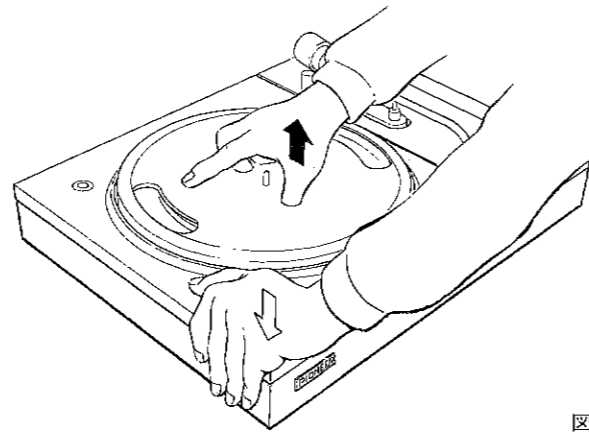


図21

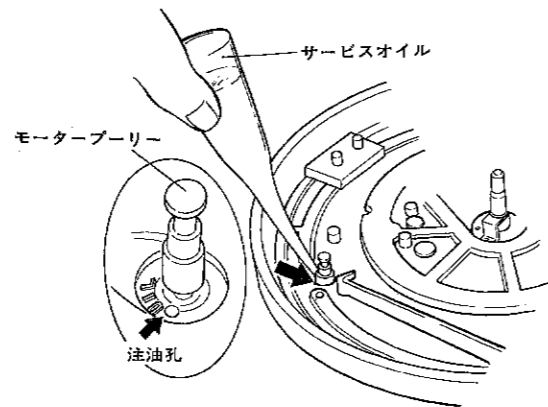


図22

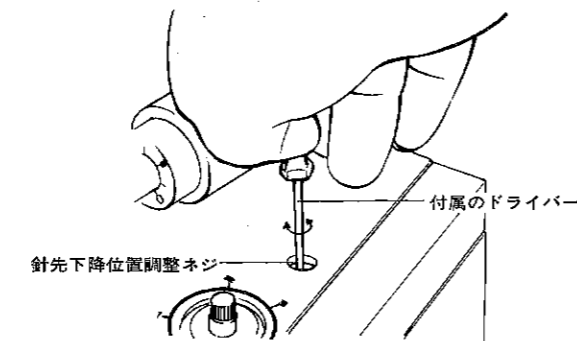


図23

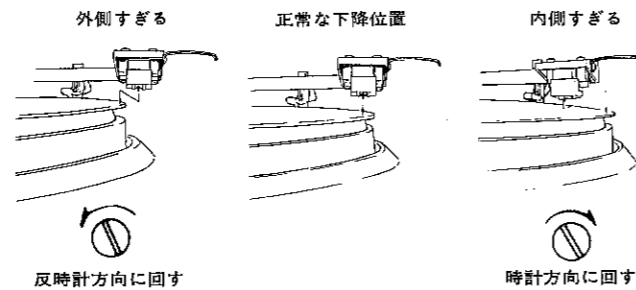


図24

仕様

フォノモーター、ターンテーブル

モーター型式……………4極シンクロナス型
 駆動方式……………ベルトドライブ方式
 回転数……………33 $\frac{1}{3}$, 45rpm 2スピード
 回転ムラ……………0.07%以下 (WRMS)
 S/N……………63dB以上 (DIN-B)
 50dB以上 (JIS)

ターンテーブル……………30cm径 アルミ合金ダイキャスト
 慣性質量……………135kg・cm² (テーブルシート含む)

トーンアーム

トーンアーム型式……………スタチックバランス方式, S字型
 アーム実効長……………221mm
 オーバーハング……………15.5mm
 取り付けカートリッジ自重範囲……………最小4g~最大10g
 (8.5g以上サブウェイト使用)

付属カートリッジ

型番……………PC-110/II
 型式……………ムービングマグネット型
 構造……………フレーム インジェクションモールド
 シールドケース スーパーパーマロイ
 周波数特性……………15~25,000Hz
 出力電圧……………3.5mV/1,000Hz(50mm/sRMS)
 出力バランス……………1.5dB以内/1,000Hz
 チャンネルセパレーション……………25dB以上/1,000Hz
 負荷抵抗……………30k~100k Ω
 ダイナミックコンプライアンス……………8.5 $\times 10^{-6}$ cm/dyne, 100Hzにて
 針先……………0.5milダイヤモンド針
 交換針……………PN-110/II
 適正針圧……………1.5~2.5g (適正值2.2g)
 重量……………5.7g

付属機構

アンチスキッピング装置, ラテラルバランサー,
 ヘッドシェルスタンド,
 アームエレベーション, 針圧直読メインウェイト,
 フリーストップヒンジ付ダストカバー

電源、その他

供給電源……………AC100V, 50/60Hz
 (モータープリー交換)
 消費電力……………10W
 外形寸法……………440(幅) \times 362(奥行) \times 159(高さ)mm
 正味重量……………7kg

付属品

45rpmアダプター……………1
 サブウェイト……………1
 ドライバー……………1
 オーバーハングゲージ……………1
 サービスオイル……………1
 使用説明書……………1

○上記の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ステレオの補修用性能部品の保有期間は8年間です。なお詳しくは、お求めの販売店または、当社サービスセンター、サービスステーションにご相談ください。

電源周波数について

電源周波数は地域により、50Hzと60Hzに分かれています。レコードプレーヤーの回転数は、この電源周波数によって決定されます。もし、お買い上げ後、別の地域に移転した場合には、ターンテーブルの回転数や音質の変化があったときは、モータープリーの交換が必要です。お近くのパイオニアサービスセンター、サービスステーションへご連絡ください。